

0157以外の腸管出血性大腸菌について

腸管出血性大腸菌はベロ毒素（VT）あるいは志賀毒素（Stx）と呼称される細胞毒を産生する下痢原性大腸菌の一つです。腸管出血性大腸菌は特定の血清型を示すことが多く、特に血清型0157がその検出数の大半を占めています。埼玉県内で1996年以降に検出された腸管出血性大腸菌の推移を下図に示しましたが、例年総検出数の80%以上を血清型0157が占めています。しかし、当然のことながらその他の血清型を示す腸管出血性大腸菌も検出されており、026や0111などの血清型が代表的です。

本年、現在までに血清型0157以外の腸管出血性大腸菌は、血清型026が4例、063が1例、0型別不能が1例分離されています。血清型063は、7月に県東部で下痢症患者から検出され、全国的にも過去2001年に3例報告あるだけの珍しい血清型でした。この患者は下痢と腹痛のみを呈す、血便などの症状は示さない軽症例でした。このように0157など特定の血清型を示さず、症状が軽くとも腸管出血性大腸菌が検出される例もあります。今後とも蔓延防止と原因究明のため、検査へのご協力をお願いいたします。

腸管出血性大腸菌検出数の推移

